1 自己評価及び外部評価結果

（ユニット名　　ー　）

事業所番号	0692700024		
法人名	株式会社　アクト		
事業所名	グループホーム　さわやか		
所在地	山形県西置賜郡飯豊町大字萩生4284－3		
自己評価作成日	平成　27年　12月　25日	開設年月日	平成　24年　2月　1日

※事業所の基本情報は、公表センターページで検索し、閲覧してください。（↓このURLをクリック）

基本情報リンク先	http://www.kaigokensaku.jp/06/index.php

【評価機関概要（評価機関記入）】

評価機関名	特定非営利活動法人　エール・フォーユー		
所在地	山形県山形市小白川町二丁目3番31号		
訪問調査日	平成　29年　1月　25日	評価結果決定日	平成　29年　2月　13日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点（事業所記入）】

自然に恵まれ、畑や花壇等があり、旬の味を楽しんで頂いている。隣接して医療機関があり、密な連携が取れており、急変時や有事の際には素早い対応が可能となっている。又、施設長が看護師であり、近郊に居住している事から24時間の対応が可能。地域の住民の方や地区とも交流があり協力体制が出来ている。個性を尊重し、その人がその人らしく入居者主体の生活が送れるよう支援している。役割を持ち生きがいを感じながら生活出来るよう個々の能力や状態の把握に努め、ホーム内ばかりで生活するのではなく、外出や散歩等戸外での活動機会を多く取り入れている。又、外出は個別でも対応しており、より個性を尊重した関わりに配慮している。入居者同士で手を取り合いながら生活出来る、明るく楽しい笑顔の絶えないホームである。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点（評価機関記入）】

2階建ての事業所に住宅型有料老人ホームを併設し、1階にある当ホームは開設して丸5年を迎え、ホールで利用者は職員と共にお茶を楽しみ会話が弾んでいます。職員は「お客様の尊厳を守ります」「心に寄り添い笑顔で接します」のケア理念を心に留めながら、一人ひとりの気持ちを受け止め笑顔で関わり家族のように過ごしている様子が見られます。日々の気づきを共有し、コミュニケーションを密にしてチームケアに取り組み、これからも地域との繋がりを更に深め、利用者が住み慣れた地域で安心して暮らせるよう支援している事業所です。

Ｖ．サービスの成果に関する項目（アウトカム項目）　※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
55	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる （参考項目：23,24,25）	○	1．ほぼ全ての利用者の
			2．利用者の2/3くらいの
			3．利用者の1/3くらいの
			4．ほとんど掴んでいない
56	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある （参考項目：18,37）	○	1．毎日ある
			2．数日に1回程度ある
			3．たまにある
			4．ほとんどない
57	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている　（参考項目：37）	○	1．ほぼ全ての利用者が
			2．利用者の2/3くらいが
			3．利用者の1/3くらいが
			4．ほとんどいない
58	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている （参考項目：35,36）		1．ほぼ全ての利用者が
		○	2．利用者の2/3くらいが
			3．利用者の1/3くらいが
			4．ほとんどいない
59	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている （参考項目：48）		1．ほぼ全ての利用者が
		○	2．利用者の2/3くらいが
			3．利用者の1/3くらいが
			4．ほとんどいない
60	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている （参考項目：29,30）	○	1．ほぼ全ての利用者が
			2．利用者の2/3くらいが
			3．利用者の1/3くらいが
			4．ほとんどいない
51	利用者は、その時々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている	○	1．ほぼ全ての利用者が
			2．利用者の2/3くらいが
			3．利用者の1/3くらいが
			4．ほとんどいない

	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
62	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている （参考項目：9,10,19）	○	1．ほぼ全ての家族と
			2．家族の2/3くらいと
			3．家族の1/3くらいと
			4．ほとんどできていない
63	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている （参考項目：2,20）		1．ほぼ毎日のように
		○	2．数日に1回程度
			3．たまに
			4．ほとんどない
64	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている （参考項目：4）		1．大いに増えている
		○	2．少しずつ増えている
			3．あまり増えていない
			4．全くいない
65	職員は、活き活きと働けている （参考項目：11,12）	○	1．ほぼ全ての職員が
			2．職員の2/3くらいが
			3．職員の1/3くらいが
			4．ほとんどいない
66	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1．ほぼ全ての利用者が
			2．利用者の2/3くらいが
			3．利用者の1/3くらいが
			4．ほとんどいない
67	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1．ほぼ全ての家族等が
			2．家族等の2/3くらいが
			3．家族等の1/3くらいが
			4．ほとんどできていない

山形県地域密着型サービス「1　自己評価及び外部評価（結果）」

※複数ユニットがある場合、外部評価結果は1ユニット目の評価結果票にのみ記載します。

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅰ．理念に基づく運営					
1	（1）	**○理念の共有と実践** 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	全体が周知出来るよう、施設内に掲示し、又、会議の場で職員間で共有する機会を設け、実践に繋げている。	毎月のケア会議の中で理念について話し合い、振り返りを行い実践に繋げている。個別ケアに心掛け、笑顔で利用者の心に寄り添い、望むことを共に楽しみながら第二の家族のような関わりをしている。	
2	（2）	**○事業所と地域とのつきあい** 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	地域の行事への参加や夏祭りを開催したり、地域のボランティアの慰問等交流を図っている。又、畑やプランターで、植え付けから収穫等、地域の方の協力を得ながら行っている。地区の広報誌等を届けて頂く事になり、今後の地域への参加を目指している。	ボランティアによる歌や踊りなどの来訪や、独自の夏祭りは大勢の参加で賑わい地域住民と触れ合い利用者の喜びに繋がっている。家族等はじめ地域から畑作業などの協力もあり、収穫は皆で楽しみ少しずつ支援の輪が拡がっている。	
3		**○事業所の力を活かした地域貢献** 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	行事や運営推進会議の開催の際に会話や質問に応じている。		
4	（3）	**○運営推進会議を活かした取組み** 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	口頭のみではなく、ビデオやカメラの映像を見て頂き、意見を頂いている。又、外部評価の項目やヒヤリハット等を報告し意見を頂いている。	会議では取り組みの状況をビデオで観てもらい、日常の様子が分かり易いと好評を得ている。ヒヤリハットの書き方について意見をもらうなど改善に繋げ、会議の結果は議事録で共有しサービスの質向上に活かしている。	
5	（4）	**○市町村との連携** 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	町の方へ伺った際、ホームの現状を伝えたり、分からない事、曖昧な事に関しては問い合わせをし確認。又、運営推進会議時にも意見を頂いている。知識の向上に努めながら連携を図っている。	町の担当者には運営推進会議の報告や、利用者を連れて一緒に窓口に行く事もあり顔馴染みの関係を築いている。不明点などは直ぐに問い合わせ助言を得て、情報を共有している。	
6	（5）	**○身体拘束をしないケアの実践** 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、環境や利用者の状態を考慮しながら、玄関に鍵をかけない工夫や、身体拘束をしないで過ごせるような工夫に取り組んでいる	日中は施錠せず、鈴やセンサー等で対応している。一人一人の状態に合わせて拘束しないケアを奨めている。	内部では特に言葉の拘束についての研修を行い全職員で理解に努め、関わりの中で気になる場合は互いに注意し合っている。外出しそうな方には声がけの工夫やドライブに出かけるなど抑圧感のない暮らしを支援している。リスク等についても家族等と話す機会を設けている。	

自己	外部	項　目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないよう注意を払い、防止に努めている	ケアの実践の中での無理強いや声掛けも場合によって虐待につながる事を理解し、どのように対応・声掛けしていくか内部研修会を行い理解を深めた。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	現在該当ケースはないが、必要性があれば家族への説明を考えている。内部研修会を行い理解を深めた。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約には時間がかかることを予め説明しており、時間をかけて説明を行っている。説明後に必ず不安や疑問がないか尋ね、理解を得ている。		
10	（6）	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	運営推進会議の定期開催により外部の方へ意見を述べる機会がある。家族の面会時や電話等で、近況報告や意見・要望に応じ取り組んでいる。	毎月、家族等が利用料を持参した時は話し易い雰囲気に心掛け、居室担当職員からの手紙とさわやか新聞を渡しながら生活の様子を伝えている。要望などはケア会議で共有し反映させている。	
11		○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	月1回の会議・研修会の開催。朝夕の申し送り時にお茶を飲みながら意見を言える関係性になっている。		
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	時間外の手当てが支給されている。職員の状況を把握している。		
13	（7）	○職員を育てる取組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	研修会の参加。経験年数に応じ、適切な研修が受けられるよう配慮されている。	毎月、輪番制で担当を決め内容を企画して様々な研修を実施し意識向上に繋げている。外部研修へは自主的な希望もあり一人1回は参加出来るよう計画し、参加後は内部で伝達研修を行いスキルアップを図っている。	

自己	外部	項　目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
14	(8)	○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取組みをしている	研修会や交流会を通じ、意見・情報交換を行いながら、ホーム外の職員の意見も取り入れ、より良い援助ができるよう取り組んでいる。	山形県グループホーム連絡協議会へ加入し西置賜支部ブロックの会議や研修会へ職員も参加し交流を図っている。悩みを共有する場ともなり、多動な利用者への対応など他事業所の良い点を取り入れたり、またネットワークづくりに励んでいる。	
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居前には本人・家族との面接を行っており、時間をかけて聴き取りを行っている。入居後知っている顔があり安心出来るような配慮をしている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	申し込みの際には、必ずホームの見学をして頂き雰囲気を見て頂いた上、時間をかけて説明、会話を持ち、納得の上で申し込みして頂いている。入居時も同様に必ず不安や疑問を尋ね、確認してから入居して頂いている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	申し込み後も定期的に状況把握しており、状態によっては他のサービスをお勧めしている。申し込み段階で、他にどんなサービスがあるのか、当ホーム利用以外の情報も提供している。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	日常的に調理、洗濯、掃除等手伝いをして下さっている。茄子漬けや干し柿作りでは、分からない職員にも丁寧に教えて頂いた。		
19		○本人を共に支え合う家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	状況に応じ家族が泊まりたいとの希望があれば受け入れ対応している。行事や面会等、時間の許す限り会話する場面を設け、近況報告を兼ねながら意見・悩み等を聴き取りしている。		
20		○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	馴染みの場所、自宅、飲食店、美容院等へ行く機会の確保。		

自己	外部	項　目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	入居者同士会話を持ったり、家事を分担して行ったり、一人一人ができる事を優先し、協力し合っている。時には喧嘩もあるが、お互いの意見をぶつけ合う場面が持てている。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用（契約）が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	退所後の経過確認、面会等も行っている。連携先及び家族との連携・調整も行っている。お会いした際には積極的に会話を持っており、ご家族が退所後も顔を出して下さる関係ができている。		
Ⅲ．その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	（9）	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	入居者・家族等から今までの生活習慣や生活歴を聞き、更に日頃の会話から希望や要望を聴き取りしている。個別に要望・要求に対して対応出来るよう配慮している。	利用者一人ひとりのこれまでの生活歴や日々の会話から、意向の把握に努めている。利用者の得意な生け花や漬物を漬けてもらうなど生き生きとした姿があり、好きなドライブも喜ばれている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	本人や家族からの情報を基にミーティング等で報告し、共有している。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	日常的に状況を判断し、本人・家族や医療機関の意見も考慮しながら毎日の申し送りや毎月のミーティングの場で情報の確認・共有をし対応を検討している。		
26	（10）	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイディアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	毎月のカンファレンス、日々のミーティング、家族や医療機関からの情報を基に計画作成し、日々ケアプランに沿った支援・モニタリングをしている。	利用者・家族等の情報を基にその方に合ったプランをつくり、日々のミーティングや毎月のケア会議で支援方法を話し合い気づきを反映させている。身体的変化時は医師の情報も入れ見直し、家族等に説明を行い「より良い生活ができるよう」に介護計画を作成している。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日々のケース記録や気づき等も考慮した上で、カンファレンスやミーティングで情報共有及び見直しを行っている。センター方式を採用し、より細かく情報を導き出せるようにしている。		

自己	外部	項　目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
28		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	町内のお祭りや、他施設の行事へ参加し、交流を行っている。		
29	（11）	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、かかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	入居時に希望するかかりつけ医の情報を取り、出来る限りホームで受診対応している。隣が医院の為、緊急時の対応が可能。	利用者のほとんどが、隣接する協力医をかかりつけ医としており、職員の付き添いで受診している。家族対応で今まで通りの通院をしている方もいる。結果等は電話連絡し、職員は申し送りノートで共有している。配薬は3人で分担し個人ボックスに納め、当日は職員2名でチェックし間違いが無い様にしている。	
30		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	施設長が看護師の為24時間対応が可能。ミーティングにも参加し日々情報共有している。		
31		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、入院治療が必要な可能性が生じた場合は、協力医療機関を含めた病院関係者との関係づくりを行っている。	面会を行い、医師・看護師と情報交換をしている。又、助言を頂いている。		
32	（12）	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、医療関係者等と共にチームで支援に取り組んでいる	本人・家族・職員・医師にて相談を行い、今後の方針を決定、共有し、ケアプランに基づき実施している。終末期においては、経口摂取ができる状態までを目途に、看取りは行えない事を家族に伝えている。	医療行為が出来ない事から、看取りは行っていない事を利用開始時に伝え理解を得ている。今出来る事を続けられるよう体操や歩行リハビリを行い、食事前の嚥下体操や口腔ケアに努めている。体調の変化によって、家族等・医師との話し合いで病院や他施設への紹介等支援している。	

自己	外部	項　目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
33		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	外部研修会でAED講習受講。		
34	（13）	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	同設の居宅介護支援事業所、有料老人ホームと合同で、災害訓練及び避難訓練を実施。地域の方は都合がつかず参加出来なかった。	避難訓練は、2階の有料老人ホームと合同で行っている。夜間を想定し暗くなってから実施してみて、避難時間がかかりすぎる事が分かり、また、地域の協力を得られていない事から、運営推進会議の参加者に声掛けしてみる事を検討している。	想定を変えた訓練は行っているが夜間の職員だけでの力の限界を踏まえ、早急に地域との協力体制の構築を期待したい。
Ⅳ．その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
35	（14）	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	人生の先輩として接し、信頼関係作りに努めている。又、本人の希望等を「わたしの手帳」に記入し意向の把握に努めている。	「わたしの手帳」を担当職員が持ち、日常の様子を書き続け新たな気付きを得ている。元気な頃の話を聞き、出来る事を見つけ、本音を聞き出しながらしたい事を決定してもらい支援している。	
36		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	日常的に選択・表出する機会・場を設けている。		
37		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	個々のペースを大事にし、要望に応じ個別に支援している。		
38		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	衣類の選択。買い物の付き添い支援を行った。理・美容店や訪問販売への対応を行った。		
39	（15）	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	日常的に聴き取り、要望に応じている。畑から収穫したり、得意な調理・季節の料理・おやつ作り等をして頂いている。外食や出前を取り、気分転換を図っている。	献立・買い物・調理は職員とそれぞれ分担して食事作りをし提供している。毎日美味しく食べられるよう見た目にも配慮し、また、誕生会には本人に聞き希望の食事を作っている。時には出前を取ったり、外出の際にそれぞれが食べたいものを注文し外での食事を楽しみ希望を叶え満足な表情を見せている。	

自己	外部	項　目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
40		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	個々に合わせて食事形態を変え提供。好みの飲み物や果物の提供。食事摂取が難しい方は医師の助言・指示により提供。		
41		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	個々の状態に応じて支援している。食事前には嚥下体操を取り入れ、ムセやつまりを予防し嚥下を促進する体操を行っている。		
42	（16）	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている	定時誘導や個々のサインを見逃さないように、排泄表を用いて、出来るだけトイレで排泄出来るよう支援している。	利用者の中におむつからリハビリパンツにレベルアップした方もおり、チェック表により排便等の様子を見ながら、羞恥心に配慮しトイレで排泄出来るよう介助している。	
43		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	好みの飲み物や果物の提供や、発酵食品を提供している。水分の自力摂取困難な方には介助を行っている。		
44	（17）	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、事業所の都合だけで曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々に応じた入浴の支援をしている	拒否のある方にもなるべく週2回は入浴して頂けるよう、誘導やタイミングを見計らった声掛けをしている。・入浴剤にて楽しんで頂いた。	日曜を除き毎日湯を入れ、週2回は入浴して貰うよう準備している。浴室の温度差や転倒に注意し、身体の状態を確認しながらゆっくり入り、気持ちのすっきり感を味わってもらっている。	
45		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々の状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	日々、個々の生活リズムに合わせて休息の支援を行っている。		
46		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬の変更時、申し送りノートで情報共有されている。服薬まで3回の確認や、薬袋を保存し、飲み忘れや飲み間違い等がないようチェックしている。		

自己	外部	項　目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
47		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	季節毎のイベントや花見・ドライブの実施。家事活動の支援。塗り絵や工作、歌等の活動支援。畑や花壇の管理。飲酒（ノンアルコール）の提供。		
48	（18）	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	季節の花の見学や近所への散歩。地域の方の訪問や地域の方との畑作業。地域の方々と交流を図っている。	買い物や自宅付近へのドライブ等、利用者の希望で個別の外出支援をしている。弁当を持って花見に出かけたり、「どこかに行きたい」の声で、皆で外出時には外食をするなど事業所外での時間を楽しんでいる。	
49		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	買い物へ行った際、好きな物を買って頂き、立て替え請求している。		
50		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	コードレス電話での対応で、家族と常に連絡が取れる状態となっている。		
51	（19）	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激（音、光、色、広さ、温度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	季節の花や植物・造花を飾り、花の好きな方に喜んで頂いている。居室・食堂・ホールは季節に応じた装飾をしている。朝の時間にはヒーリング音楽をかけたり、冬期間は積雪等で神社へ参拝に行く事が難しい為、手作りの神社にて参拝して頂いている。	日中のほとんどを過ごすホールは、模様替えをしながら装飾に力を入れ、目を楽しませ居場所作りをしている。おしゃべりの傍らでリンゴをむき、午後のおやつの準備している利用者がおり、出来る事をうながしている様子が見え微笑ましさが感じられる。	
52		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	ソファやマッサージチェアを設置し、個人で思い思いに過ごされている。		

自己	外部	項　目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
53	（20）	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	以前から使用している物を持ってきて頂き、本人や家族と相談し、意向に合わせた支援を行っている。	利用者が使いやすいベッドの配置をし、ふとんは馴染んだものを準備してもらっている。整理整頓は担当者と一緒に行い、清掃は毎日掃除機をかけた後、モップがけをして居心地よい暮らしをしている。	
54		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	トイレ・浴室・廊下に手すりを設置。転倒予防の鈴やセンサーの設置や見守りの強化等、予防策を講じてより安全に過ごせる様配慮している。		